



▲会場に団子さしが飾られた「新春村民のつどい」



タツフ。いほめる。
シツカリしかる。

教育のページ

「地域力を教育に」



飯館村教育委員会
委員長

佐藤 隆明

1月14日、見事な稲穂がたわわに稔った。恒例の「新春村民のつどい」会場に飾られた「団子さし」のことである。

今、各地で伝統文化である祭や年中行事、伝統芸能といった地域に根ざした文化が見直されつつある。

かつて、正月は子どもの大きな楽しみの一つだった。子どもの出番も多かったように思う。風揚げ、コマまわし、かせどり、恵比須講。2月になると節分の豆まき。そして、節句や七夕と続く。風は親子が一緒になって竹ひごを削って作った。子どもは、いつも年中行事の主人公だった。

しかし、こうした伝統行事は戦後、敬遠されるようになった。子どもの学習の場である学校はもと

より、地区の祭りや伝統芸能への参加も宗教性が高いとされ排除されたのである。

このような歴史的背景から、伝統的なものは古臭いもの、不合理なもの、時代に合わないものとして人々から忘れ去られてきたのである。

幸いにも本村では、先の第4次総合振興計画での地区別計画の取り組みもあり、多くの行政区で足元の伝統文化に着目する事業展開があった。例えば、飯樋町行政区では、ほとんど不可能だと思われていた「飯樋町の田植え踊り」が50年ぶりに復活を遂げたのである。（平成12年2月）

こうした取り組みは、世代をこえた地域総ぐるみの交わりを取り戻そうとする新たな文化の創出にはかならないと思う。同時に、これこそが飯館村の『地域で子どもを育てる』という教育理念の礎なのであり、学校、家庭、地域の連携という今日の教育課題における『地域の教育力』だと思う。

子育て相談室 — お気軽にご相談ください —

いじめの問題 その1

いじめられて命を絶つという悲惨な事件が相次ぎ、心が痛みます。文部科学省の指示で全国的に各学校でのいじめ調査が行われました。飯館中にもいじめ問題があったようで、先生方が真剣に指導にあたられました。

いじめられる子どもがいるからいじめがあるのではなく、いじめめる子どもがいるからいじめがあるのです。いじめ問題の本質は、いじめめる子どもの問題です。いじめられる子どもには何の科もないのが通常です。人には、太っている、やせている、速く走る、動作がゆっくりなど、その人らしさを示す特性があります。これらの特性がいじめの対象になるとしたら、いじめ問題の非がどちらにあるかは明らかです。

いじめをする子どもたちは、いじめをするとき楽しく気持ちがいい、と言います。そんなことでしか生きることの心地良さを味わえていないのです。この問題には、いじめをする子どもたちの「心」の解明と理解が必要です。

飯館中学校および相農飯館分校
スクールカウンセラー

海野 和夫

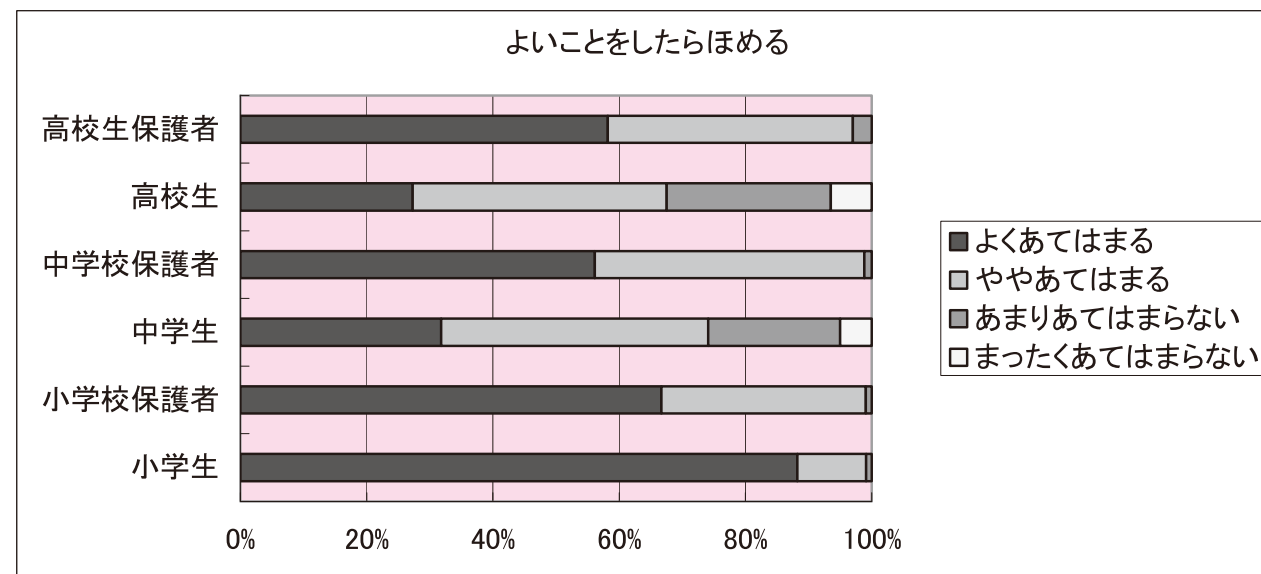
飯舘村生徒指導総合連携推進事業 アンケート結果



村では今年度と来年度（平成 18 ～ 19 年度）にかけ、文部科学省の指定を受けて「飯舘村生徒指導総合連携推進事業」に取り組み、地域と学校と保護者の強い連携により、子どもたちの健全育成を目指した取り組みを進めています。

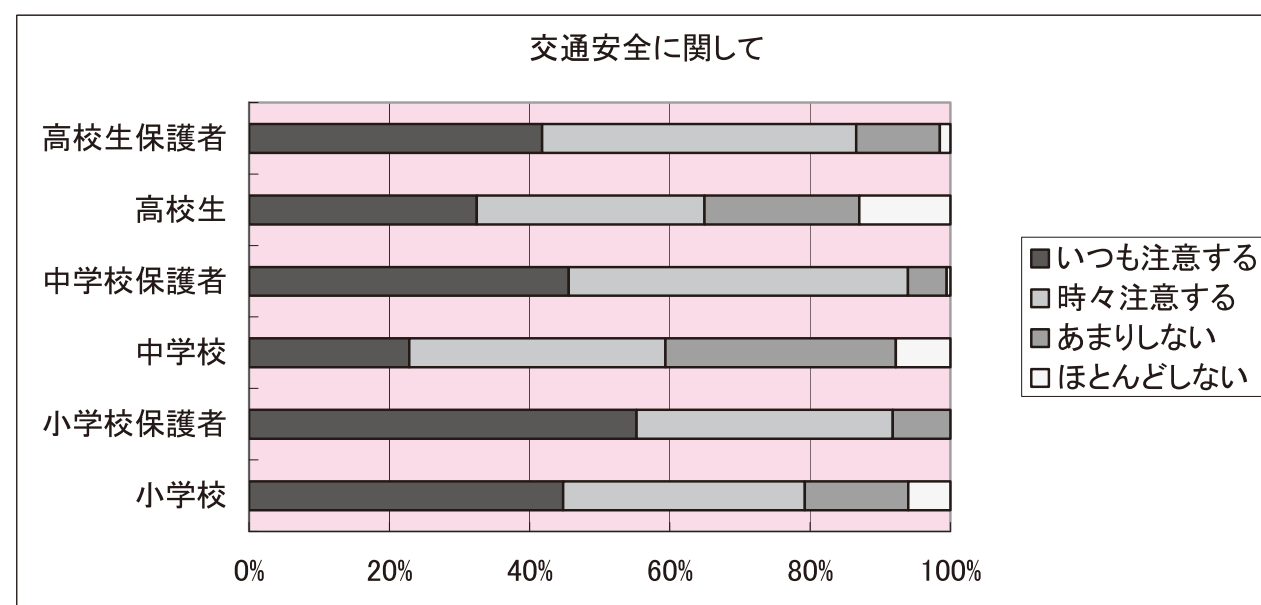
その一つとして昨年末、皆さまに協力をいただき地域の規範意識を調査しました。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。調査結果からより良い連携を進めていくヒントを見出し、有効な対策を講じていきたいと考えています。

今回のアンケート結果から、考えられることをいくつか紹介します。



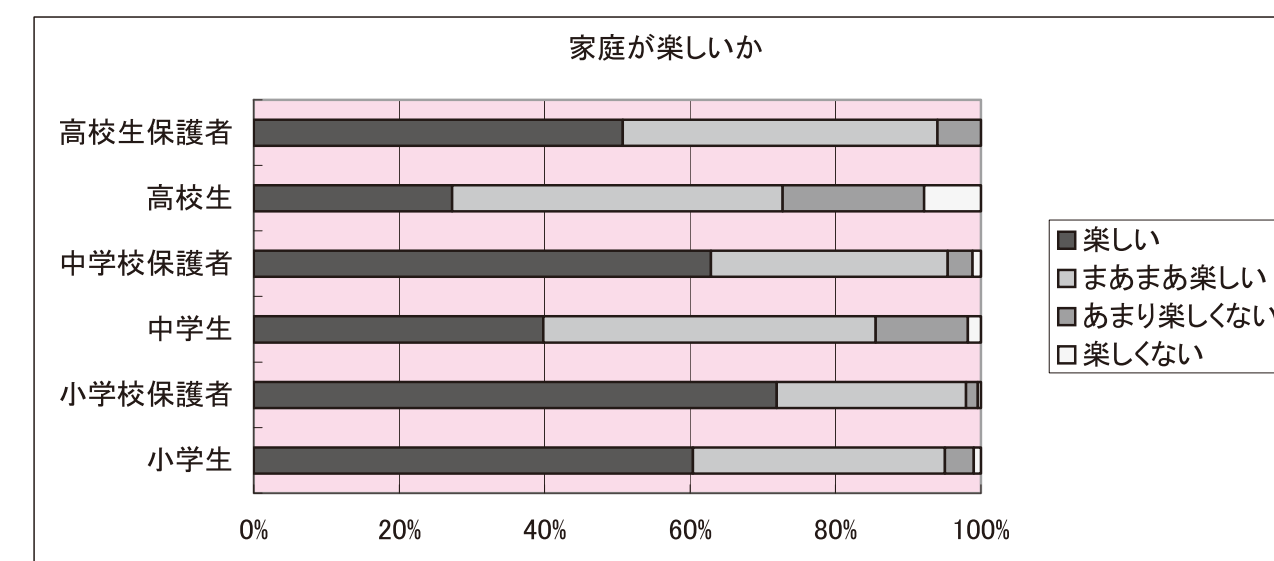
子どもの「悪いことをしたときはきちんと叱ってほしい」、「良いことをした時は、ほめたり認めてほしい」という回答は、家人に対する期待感をあらわすものです。親の意識と、中・高校生の意識のギャップが大きくなっていきます。

また、「交通安全など身を守ることを」注意される子どもほど、「自分のためを思って言っている」と感じていること。また、反社会的な行動（万引き、喫煙など）に対する規範意識が低いとの調査結果が出ました。



この事業の標語でもある「タツプリほめる。シッカリしかる。」も、自分の感情や気分で叱ったり、ほめたりしているかどうかで、子どもの規範意識が変わってきます。親の愛情を感じさせながら、毅然とした態度で子どもとしっかり向かい合う事が大切です。

皆さまにご協力いただいたアンケートを研究・分析し、次年度の生徒指導の対策を本気で考え、より良い飯舘村の子どもをつくり上げていきたいと考えております。



この質問項目では、保護者の意識と児童・生徒の意識の差に注目してください。小学生は保護者と同じくらい家庭に満足していますが、学年が上がるごとにその差が大きくなっています。

また、グラフにはしませんでした「家庭が楽しい」と答えた子どもは、近所とのつきあいや、ボランティア活動に積極的に参加する傾向が強いという調査結果が出ました。

